



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「マザー・テレサ」  
 「祈るように生きる」というタイトルで、カトリック・イエズス会の片柳弘史司祭の文で、「あなたの生活そのものを、祈りとして神に捧げなさい」とのマザー・テレサの言葉が、その副題となっている。祈りが人を変えられる力を見た。「そもそも、祈りとは何でしょうか。祈りの本質は、神を愛するということ。神への愛ゆえに自分をすっかり神の前に差し出すこと。わたしたちの人生そのものを、神の前に出してゆくのです。日常生活のあらゆる場面で神の存在を感じることができれば、すべてを祈りにすることができます。わたしがカルカッタにいた頃、オーストラリアから、あるご婦人がマザーを訪ねてやってきたときのことです。胸当て付きのジーンズに麦わら帽子という格好の彼女は、田舎で農業を営んでいたのだけれど、夫がアルコール中毒で暴力を振るい、息子まで非行に走り暴力を振るようになったというのです。『もう、自殺しよう』とまで考えましたが、『死ぬ前に、憧れのマザー・テレサに一目会いたい』と着の身着のまま飛行機に飛び乗り、カルカッタにやって来たのです。マザーは彼女の手をしっかりと握りしめ、じっと話を聞いていました。話が終わったとき、彼女はわたしたちの方を見て言いました。『もう用が済んだので帰ります。死ぬのはやめました。世界中に一人でも、わたしのことをこんなに大切にしてくれる人がいるなら、死ぬのはもったいない』。二人が話しているのをそばでじっと見ていたわたしは、マザーの眼差しにとっても驚きました。マザーは、まるで美しい花かきらびやかな宝石にも見入っているような目で、彼女を見ていたのです。あのときのマザーの眼差しは、間違いなく祈りでした。その愛と祈りは、確かに相手に届きました。そして、一人の女性の命を救うという奇跡を起こしたのです」(日本FEBIC・二〇一五年四月増刊号)

私たちを大切にしてくれる人の愛の眼差し一つで、自殺願望の婦人が生きる望みを与えられたというのは、祈りの力の結果である。そして、それを支えた主イエスの愛の力があつた。主に寄り頼む時、主の力が人を変えたのだ。主イエスはペテロのために「あなたの信仰が無くならないように、あなたのために祈った」(ルカ二一・32)と言って、彼を励ましている。その時の主の面差しはどんなであつただろうか。ペテロは自分の面に掛けてでも、主を守りたかつたのだが、自分の面子や我力で信仰を守り通すことはできやしない。そんな彼の信仰を支えたのは、絶えざる主から注がれるペテロへの愛であつた。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

